

回 答 書

受付番号	回収年月日	回収場所	担当主管課
第 1 9 号	平成26年7月14日	伊予市役所	未来づくり戦略室
題 目（テーマ）：市長の見解を問う			
提 案 内 容（要旨）			
伊予市にUターンして約9年が経過しました。自分の住むまちを少しでも良くするために、色々な意見も言わせていただきました。物の考え方は十人十色と申しますが、最近身近な出来事として、こんなことがありました。 自分たちの意見にそぐわない人は、排除されるのです。ある数名の責任ある人から、数十人の前で個人攻撃を受けました。否応なしに辞めるように仕向けられ、結果的に排除されました。そして、「よそ者は黙っておれ!」「つべこべ言うな!」。こんな発言が後から聞こえて来ました。このような事を言われたのは、私達ばかりではありません。またこのような言葉を発した震源地が、まちづくりの責任者の存在の数人から発信されたのでは、問題を感じざるを得ません。 このような発言は、胸にぐさりと突き刺さりました。しかしながら、多勢に無勢で個人ではどうすることも出来ませんでした。 市長は、「若い世代が住みたくなるまち」「子育てしやすいまち」にしたいという夢を持っていると聞いております。果たしてこのような発言をするような人がいるまちに、若い人が喜んで住むとお考えでしょうか。 若い人たちの発想でまちづくりをしないと、マンネリ化が進み、改革が進行しません。むしろ、進行速度が遅い分、時代の進歩から取り残されてしまうでしょう。一方、古い人は、物事をよく知っている事から便利で重宝されるのも確かです。しかしながら、昔人間が、余り前に出すぎると、若い人が育ちません。そして、長年にわたり、人の上に立ち過ぎると、水が澱んでいきます。改革が出来ません。澱んだ水を浄化するには、新しい水の注入も必要だし、汚い水を排出することも必要でしょう。 伊予市には、このような現実を改めようとする力があるのでしょうか。			
回 答 内 容			
組織運営等に対する見解についてお答えいたします。 伊予市では自治基本条例にも規定しているように、市民が相互に助け合い、地域の課題に自ら取り組む「住民自治」を市政運営上の重要な取り組みとして推進しており、各地域においては、広報区をはじめ、自主防災会、老人クラブ、愛護班等様々な組織・団体が地域のため精力的に活動している状況であります。 組織・団体の運営については、今までの積み重ねにおいて確立された独自の方法や手段によって行われておりますが、地域に根ざし、住民から信頼を得る組織・団体にするためには、年齢、性別、出身地等に関係なく、お互いの人格を尊重したうえで、広く意見を出し合い、合意形成を諮っていくべきであり、少数意見を排除したり、抑圧したりすることのないように配慮する必要があると思います。 行政としましては、幅広い層の方が地域の組織・団体へ参画し、地域課題の解決のため活動できるよう、環境づくりに努めてまいりたいと考えております。			